

大雨や台風、大雪に備えよう



洪水



土砂災害



雪害



電停・突風

自然から、台風や大雪・天候などに備える準備(災害準備)を始めることが大切です。特に、避難経路・避難場所が発表された時は、安全対策に心がけましょう。

家族で防災会を開いて話し合ってみよう

- ① 緊急避難場所はどこか、避難場所までの道順を確認しよう。
- ② 家族がはなればなれになったときの連絡方法を決めておこう。
- ③ 非常持ち出し品の置き場所を決め、みんなで確認しよう。
- ④ 家の中でどこが安全か、また危険なところはないか、チェックしよう。

電話が通じない!

災害時の連絡方法

「緊急災害ダイヤル171」

「地震や火災とにかく誰かとつながりたい」という声に応えるために、「緊急災害ダイヤル171」の使い方を全国のみなさんに伝えておきましょう。

「災害時の連絡より大切なことは、家族の安全確認です。災害時の連絡方法として、家族の安全確認を優先しましょう。」

メッセージの発信

メッセージの受信・確認



緊急ダイヤルは地震などによる大規模な災害が起きた場合にのみ、通話が可能になります。しかし、災害が起きた際には、家族の安全確認を優先してください。(原則として10分以内の通話時間です)



保護者の皆様へ

家や近くの避難場所はどこか、また避難場所までの道順も、家族で確認してください。緊急の連絡先には家族、知人の記入をお願いします。

| | |
|----------------|------|
| 住所 | |
| 名前 | |
| 生年月日 | |
| 性別 | |
| 保護者名 | 電話番号 |
| 保護者名 | 電話番号 |
| 緊急連絡先(家族、知人など) | |
| 連絡先 | |
| 学校連絡先 | |



秋田県を襲った自然災害



秋田県を襲った自然災害

保存版
小学生
高学年用

災害から命をまもるために

もしも地震が起きたら、おどろいてくることと防災について、ぜひお話し合いましょう。



「地震がおきたら、おどろいても大丈夫です。お話し合いの機会を大切にしましょう。」

自分の安全を確保し、自分の命は自分で守ろう!

地震がおこったら…。

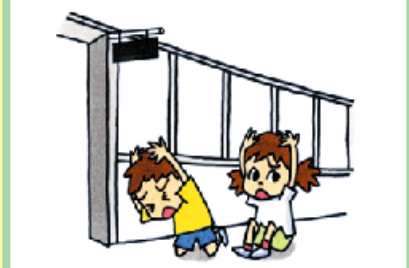
学校にいるときに

教室では



- つくえの下にもぐって、頭を守る。
- つくえのおしを両手でつかもう。
- あわてて教室の外に、とび出さないようにしよう。
- 出入り口に寄らないようにしよう。

ろう下や階段では



- ガラスからはなれよう。
- 天井の天井の下からはなれよう。
- 多くの教室にのけて、机の下にもぐろう。
- 階段付近に寄らないようにしよう。

学校へのいきかえり

せまいみちでは



- ブロックベいや自動はんはい機からはなれよう。
- 窓ガラスが落ちてくる可能性があるビルや家からはなれよう。

歩道橋や橋の上では



- すばやく安全な場所へ移動しよう。

体育館やグラウンドでは



- グラウンドでは、地震れに注意しよう。
- 屋根やサッカーのゴールなどからはなれよう。
- グラウンドでも体育館でも、大きなゆれを感じたら、まん中にいよう。

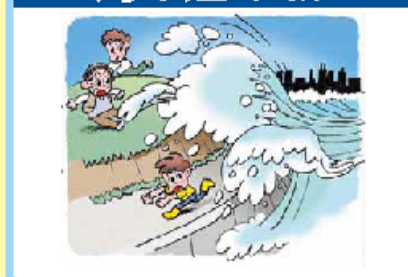
ひなんするときのお・か・し・も



- 「おさない、かげない、しゃべらない、もどらない」のやくそくをまもって先生のいうことにしがいましょう。

ゆれがおもあつて、ひなんするときは、机のひもを握りなす

海の近くでは



- 沖波が来るかもしれません。すぐにできるだけ高い所へにげよう。

山道では



- 落石やがけくずれに注意しよう。

山道はところへは、近づかないで、安全な場所へ逃げよう。



ゆれがおもあつて、ひなんするときは

- 自分の身の安全が確保できたら、ひなんするときに、クラスの仲間や下級生にも声をかけよう。
- ろつ下や階段では、おさない、かげない、しゃべらない。
- ひなんする時は、われたガラスに気をつけよう。
- 沖波が来そうなら、遠いで高い場所へひなんしよう。
- 安全な場所にひなんしたら、もどらないようにしよう。



津波について

- ①津波は、地震が起きてから、数分も経って来ることがあります。
- ②津波の初波での到達時は、ジェットコースターの急勾配に匹敵することもあります。
- ③津波は、走り出し驚いてきます。最初の波が一番大きいとは限りません。
- ④津波は、場所によって、高さがあります。
- ⑤たとえ80cm程度の高さでも、立ってはいられないほどのいよくがあります。
- ⑥津波は、川や海をきかぬります。海堤でなくても危険です。

